

特集 子どもたちが考える南阿蘇の未来

1月26日、村の未来を担う子どもたちに行政に興味・関心を持ってもらい、これからの村づくりへの意識を高めてもらう機会とするため、また、子どもたちならではの発想力を村政に活かすため、役場議場にて「南阿蘇村子ども議会」が開催されました。

当日は、南阿蘇中学校の2年生84人のうち代表として13人の生徒が「子ども議員」として参加。学校で話し合った子どもたちの目線で「日ごろ生活するうえで疑問に思っていること」や「村をより良くするための提案」などを村長をはじめ、村の幹部職員に対し、自分たちの言葉でしっかりと想いを伝えました。

当日、代表して質問した子ども議員とその内容・回答の一部抜粋して紹介します。



1班「南阿蘇の自然を守ろう MISSION」

■提案理由

中学校でアンケートをおこなった結果、南阿蘇村の良いところは「自然や景色が素晴らしい」がとても多かった。だが、ゴミなどが道に落ちているのを見かけることもある。また、南阿蘇村の景色を守っている農畜産業従事者の高齢化が進んでいるため、農畜産業に携わる人を増やすことが必要だと思う。

■提案

- ①地区ごとにゴミ拾いなどのボランティア活動をおこなう。
- ②公共の場にゴミ箱を設置する。
- ③農業を体験するイベント（稲作体験、牧場体験など）をおこなう。

■村長回答

- ①各地区で「区役」として自分たちの地区の住環境を守るため、道路の草刈りやゴミ拾いを実施してもらっている。今後ともこのようなコミュニティ活動が続いていくように取り組んでいきたい。
- ②公共の場にゴミ箱というのは、管理不足になるとかえって景観が悪くなるので、誰が管理するのかなどを含めて検討していく。
- ③村では「南阿蘇村農業研修生受入協議会」を設置しており、その活動の中で「農のしごと」新規就農・就業現地研修バスツアーなどをおこなっている。今後も内容の充実に努めていく。



1班代表
永野隆斗 議員

2班「観光施設ともっと健康！げんき！アップみなみあそ」

■提案理由

2年生を対象におこなったアンケートで、今後の村づくりに期待することとして「買い物をしやすくしてほしい」「公園や遊び場などを作ってほしい」という意見が多数あった。一方で、村内にはすでに多くの観光スポットや飲食店があるため、私たちは南阿蘇村にあるお店のことを十分に知らないのではないかと疑問に思った。

この問題を解決するために村の住民の皆さんと観光客に村のことを知ってもらい、魅力を伝えるためにお店の宣伝になるような仕組みを作ってはどうかと考え「観光施設ともっと健康！げんき！アップみなみあそ」を提案する。

■提案

熊本県が運用するアプリ「もっと健康！げんき！アップくまもと」を参考にして、企画協賛店舗を募り村内のお店を巡ることでポイントを獲得し、獲得したポイントを村内で使えるようにするほか、ポイントに応じて商品券や南阿蘇村の特産品などがもらえる仕組みを整える。

■村長回答

当該アプリの利活用は観光誘致や村のイメージアップに役立つと考える。村内商業施設の宣伝効果を高めるとともに、新型コロナウイルスの影響で低迷している観光の復活にもつながるものと考えている。難しい面もあるが、提案いただいた内容は今後も検討をすすめ「もっと健康！げんき！アップみなみあそ」を目指していきたい。



2班代表
古澤亨佳 議員

3班「みんな健康、暮らしやすい村で人口増加プロジェクト」

■提案理由

2年生を対象におこなったアンケートで「これからも南阿蘇村に住みたいか」との質問に対して、34%の人が「どちらかといえば住みたくない・住みたくない」と回答した。その理由を確認すると「遊び場がない」「買い物がしにくい」などの回答が多く、このことから、子どもたちにとって魅力のある施設がないのではないかと考えた。また、村内の「医療施設の少なさ」についても意見があり、「病院への通いやすさ」「24時間受診可能な病院」を求める声があった。

■提案

現在、村内にある廃校舎施設を利用して、子どもたちが考える「遊び場」を整備する。

また、村内の医療施設の充実については、24時間対応可能な病院の他、病院へのアクセスのしやすさを高める取組みとして、病院を巡回するコミュニティバスもしくは乗合タクシーの整備を提案する。

■村長回答

南阿蘇の大自然を活かすことが村にふさわしい公園の姿だと考える。親子で遊びながら自然体験ができる場所の確保や、子ども達自身が自然を活かして遊ぶことが大切なことだと思うので、今後も南阿蘇村にふさわしい遊び場づくりにみなさんの意見を伺いながら進めていきたいと考える。

病院へのアクセス方法を増やすことについては、村内には予約型乗合タクシー、社会福祉協議会の外出支援サービス、阿蘇立野病院が行っている送迎がある。また、村内の病院では、ご自宅や高齢者施設への往診をされており、病院へ行くことが難しい人への医療も充実していると考えます。



3班代表
藤崎祥太郎 議員

4班「命を守ろう 防災プロジェクト」

■提案理由

平成28年の熊本地震を経験し、災害がいつ起こるか予想できない状況のなかで、災害時に「いつでも」「だれでも」利用できる避難所の整備が必要だと考えた。また、災害に備えて、小中学生のみならず、小さい子どもでも、いつでも対応できるようになってほしいと思う。以上の点から、南阿蘇村全体の防災力を高めるために、「いつでも」「だれでも」利用できる避難所の整備と、全ての年齢の人を対象とした村全体での避難訓練を実施してはどうかと考える。

■提案

「いつでも」「だれでも」利用できる避難所にするために、施設のバリアフリー化や衛生管理の徹底を推進する。避難所をバリアフリー化することで、避難者が避難所を選ぶことなく、速やかに避難を完了することができるようになる。

住民全体での避難訓練を実施する。そのことで、避難所運営など災害時の役割分担を確認することができる、避難の際の家庭内のルールを話し合うきっかけにもなり、南阿蘇村全体の防災意識を高める効果が期待できる。

■村長回答

避難所のバリアフリー化については、基本的にはバリアフリーの施設を避難所として指定しているが、数箇所そうでない施設もある。予算などの問題もあるため、避難所開設時に応急的に段差を解消するスロープ等の整備なども含めて検討していきたい。

住民全体避難訓練については、熊本地震の際の避難所で、小中学生が食事の配布や掃除などに協力してくれたことで、避難所の環境が大変よくなったと聞いているので、ぜひ中学生の皆さんと一緒に訓練ができればと考える。



4班代表
田上由奈 議員

【桐原議会議長による講評】

相当な緊張があったと思いますが、実に堂々と自分の意見を発表され、自分以外の答弁などにも真剣に耳を傾ける子ども議員の皆さんの姿は大変素晴らしいものでした。

本日、南阿蘇村の将来を託せる優秀な人材がこれだけ多くおられることを目の当たりにし、本当に安心いたしました。温もりのある村づくりのため、今後も皆さんの力を貸していただきたいと思います。

【島田仁子子ども議会議長の感想】

まずは、無事に終えることができ、ほっとした気持ちと楽しかったという気持ちがあります。自分から立候補して議長の役割をさせていただいたのですが、このような目立つ場所に座るとは思わなかったので、びっくりしました。

しっかりと自分の意見や考えを発表する同級生の姿はとても誇らしく感じました。このような機会を設けていただき、関係者の皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。